



こもれびの森の植物

秋になるとだんだん花が少なくなりさびしくなってきますが、足元にタデ科の植物が目につくようになります。前から咲いていたのに地味な花なので目立たなかったのですね。

イヌタデは2mmほどの小さな赤い花をたくさんつけます。ルーペで見ると、とても可愛い花です。別名アカマンマと呼ばれ、私も子供の頃ままと遊びで使い親しみがありません。

ヤブタデは、花が小さくまばらにつくので、繊細な感じがします。花は完全に開く数が少なく、つぼみのように膨らんだ形をしています。



イヌタデ



ヤブタデ



シロバナサクラタデ

シロバナサクラタデはB地区に咲いています。高さ50~100cm位になり、垂れ下がった花穂に白い花が目立ちます。花が大きく美しいのでサクラタデと名前がついたのですね。私の大好きな花です。

タデといえば「蓼食う虫も好き好き」という諺を思い浮かべますがこの「蓼」は葉に辛味がある「**セナギタデ**」のことです。虫だけでなく人間も刺身のつまや、蓼酢として、食用にしているそうです。どんな味なのでしょう、一度味わってみたいものです。タデ科の植物は日本には約20種あるそうです。もっといろいろな花に出会いたいですね。(田中)

木もれびの森の薬用植物(10)

ノダケ(セリ科シシウド属)

セリ科の花は散形花序で白い花が多いですが、ノダケは9-10月に紫色の花をつけます。開花するまで数年かかり、開花後は枯れてしまう高さ80-150cmの多年草です。紫色の5枚の花弁と5本の雄しべが開く雄性期が先で、その後花弁と雄しべが落ちると雌しべの柱頭が2つに開いて伸びて雌性期となり、子房が膨らんで実を結びます。

ノダケの根は生薬「前胡(ゼンコ)」として使用され、解熱、去痰、鎮咳、発汗、鎮痛作用があります。漢方処方では、「参蘇飲(じんそいん)」に含まれ、



この処方では虚弱な人の風邪や長引く風邪に用いられます。漢方処方では、君臣佐使(くんしんさし)といって、中心生薬を君薬、君薬の作用を補助し強める生薬を臣薬、君臣薬の効能を調節する作用をもつ生薬を佐薬、君臣佐薬の補助的な役割をし、処方中の生薬の作用を調節したり服用しやすくする生薬を使薬と呼んでいます。いわば主役と脇役、端役のようなものですが、同じセリ科の当帰や柴胡とは異なり、前胡は処方の端役でしかないようです。とはいえ微量の未知成分も薬効に関与している可能性を秘めているのが漢方薬です。(川村)

活動紹介； ジュニアボランティア活動について

森は青少年の豊かな人格を育む体験活動の格好な場です。青少年健全育成協議会が「地域・子どもふれあい事業」の一環として『木もれびの森』という素晴らしい自然環境を活用して体験していく活動が計画され、



大野台公民館を通じ当会に実行主体としての協力依頼があり平成15年より開始されました。近隣の小中学生を対象に一年を通して4回～12回開催する形で、延べ119回、様々な学びや体験をし、延べ290名ほどの子ども達が巣立っていきました。将来『木もれびの森』をはじめ、全ての自然を愛し守り育てていく担い手として活躍してくれるものと期待しております。(海野)

- ① 自然観察 .. 森の生態系・動植物観察
- ② 森の保全活動 .. 下刈・間伐・落葉かき・林内整理・ドングリの植付け
- ③ 森と人との関わりを知る .. しいたけホダ木作り・堆肥作り
- ④ 森を楽しむ体験 .. 木工クラフト・ネーチャーゲーム・花炭

